

## 父帰る・丸の内篇

東京駅に井上さんが帰ってきた。というかごめんない、前にもっと駅舎近くに居た時、誰だか分からなかったんだ。よくつかいかい会社や皇居の周りにいる、何か偉いことしたオジサンかなあ？くらいの認識しかね。

居なくなつてから気が付いた、日本の鉄道の父だつてこと。八ツ山の近所の、沢庵和尚と同じお墓に眠つて、それは、自らが基礎を築いた鉄道の線路が見える場所に……という意思に基づくものだつていうこと。それは東京駅の駅前に銅像があつて当然だ、居なくちゃいけない！

スッキリし過ぎて、中国の何とかが広場みたいと思つてしまふ。まあ中国を始め、世界中の観光客が溢れ返つて、日本という認識も薄れそうになるけど。これで一層、丸ノ内口と八重洲口のコントラストが強くなつた。駅前こそ綺麗になつたけど、八重洲仲通りのゴチャゴチャ感はそのまゝ。八重洲通りの鉛筆ビルが並ぶ風景も微笑ましい。丸の内でお尻がムズムズした人は、自由通路で八重洲口に逃げろ〜！ あつ、お父さんもちよつと一杯やりたい気分じゃないですか。立つてるのが疲れたら、たまにはやりましょう。



## 高野金次郎商店

親切第一 平成30年4月号

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大塚2-26-2

fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com

協力:高島平電腦研究所、築地河岸工房

関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索するとポータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.booo.jp/

### 勝手にお気に入り5

個人的に好きな立川左談

次師匠の嘶ベスト5

- ・権兵衛狸
- ・反対陣

- ・僕の読書日記

- ・妾罵

- ・浮世床、長短

照れ屋でクールでフワツとして怖くて優しくて街っ子でトリが嫌いでお酒と煙草が好きで……(合掌)

## 銀の輔銀座千枚



春は銀座も初々しい。東京一ファッショナブルな街にも、黒っぽいスーツが身に付いてない若い人達が沢山歩いてる。これが数ヶ月も経つと、ちゃんと銀座うほくなり始めて、秋になれば一丁前の「銀座で働く人」になつていくんだから不思議だな。

数寄屋橋の交差点、交番の後ろで咲き誇る桜は、そんな眩しい若者を祝福してるみたい。有楽町で電車を降りて、西銀座デパートのガードを潜つて、住所

も銀座と変わった途端に待ち構える桜は、学生時代に何気なく見ていたものとは、きつと違って感じると思つた。奥にある地下鉄のエレベーターなんか、出てくる人大歓迎〜みたいだ。でも街のショーウィンドウはとつとに夏。ガラスの内側の季節は、いつも数ヶ月先。あれ、もう半袖一枚で歩かなくちゃダメ。つて勘違いしてしまう。春ですよ。まだ春真る盛りですよ、数寄屋橋の桜は手を振っている。



# 琥珀と道行き

朝起き抜けの泪橋、様変わりした南千住駅周辺にホッとするのが在りし日の風景を重ねるのか、真新しい俳聖の銅像の目線の先は大川と決めつけて、ガードを潜って歩道橋渡つての泪橋さ。

世界酒店はとうにコンビニとなり、いろは商店街の前の酒盛りもまだ口が開かぬが、吉野通りの向こうがし、エコーの扉は開いている風。来る者に気負わせぬ大窓越しに、バッハの人は、恐らく僕がお客と察知した段階で、一名様ですと店内スタツプに準備の声を掛けている。

申し訳ないと思いつつ、コーヒード豆を挽くところからパツパフレンドが出来上がるまで、丁寧に無駄のない動きを、

カウンタ―越しに凝視してしまう。まるでパーテンがカクテルを作っているかのように。シュルプリーズの誘惑を振り払う日本堤の朝。

いろは商店街と並行する、激減したとは言えまだまだ残るレストハウス群を抜け、土手の伊勢屋脇から見返り柳を斜前に見て、馬道を折れての千束通り。言問を渡つてひさご通り、六区に興行街の面影は演芸ホールとロック座ばかり。

すしや通り手前の細道の先には、珈琲アロマの置き看板。変形コの字のカウンターには物知りのマスター、壁には落語会の手ラシがピッシリ。見覚えのある芸人さんがいても、いやいや声を掛けちゃあいかなあと、一瞬イチゴジュースとオニオントーストも頭を過ぎったけ

ど、ネルドリップのコーヒ―にホットドック。近頃の浅草話が良きスライスに。すくそばの国際通りを左折、田原町から

浅草通り、仏壇街を眺めて稲荷町、下谷神社裏から車坂も横切つて、宝ホテルはこの辺だったなあと韓国街から春日通りをジャンプして竹町、二長町から和泉橋ポンプ場の赤煉瓦。昭和通りを渡つて一気に秋葉原のざわめきに突入し、神田食堂も役目を終えて、神田市場はどこだったっけ。

佐久間橋の親柱を撫でて、和泉橋を渡つて魅惑の柳原通りの角、にしんカメラで謎めいたフィルムを探し、軽々汗はむ体にああ春も深まってきたなど実感しつつ、落ち着く先はアカシヤの昭和一粒ビル。このアイスコーヒ―を飲むと、真冬でもホットを頼まない人の気持ちも領ける。

確かにオヤツには少々早いけど、歩いてるんだから良いではないかとアイス乗っけのコーヒ―フロート。途絶えることなき客

足を見事にさばくマスター夫婦のチームプレイを見ながら、あゝこで常盤新平さんにお会いしたっけな、チャーも元気で椅子の上で丸くなつてたよなど、思い出が沸き立つ。

変貌著しい柳原土手通り、JRの高架に沿つて、ふれあい通りをガードした見物。飲み屋だらけになれば目の前は中央通りで、左に折れて鍛冶町今川橋、工事現場の室町本石町、日本橋を渡つて、はいばら高島屋丸善を折れて八重洲仲通り柳通り、エドグラン東京スクエアの裏手を通つて、よつようの銀座ゴール。

並木通りから西銀座通りに出て、珈琲十一房の茶道の如き深いネルの味を愛でて、琥珀道行き大団円。



高級句誌  
俳人同様  
Haijin Doyo  
三朝庵梅里・箒  
SAN CHO AN BAI RI



大川注ぐ神田川、昭和通りの  
すく近く、岩本町を降り出しに、  
柳原通りから続くのは、名も麗  
しき大門口、観音裏に吉原が  
引越す前に在りし場所、昔殿  
町今人形町、江戸の頃には役者  
や絵師や、数多の職人住みし街  
勿論芸者も三昧の音も、響く花  
街色街に、あつた大門口かう道、  
服飾関係通り過ぎ、山崎パンの

本社も横目、靖国通りを横断し、  
大小ビルは大小オフィス、さら  
ば千代田区やあ中央区、小伝馬  
町は牢屋敷、飲食店が肩並べ、  
ふと左手を眺めれば、変貌激し  
い馬喰町、でも真つ直ぐに大伝  
馬町、江戸随一と浮世絵に、描  
かれ羨望大通り、左方は織維の  
横山町、スカイツリーも真正面、  
ふと右手には税務署が、睨みを

利かす堀留町、寧ろし名物相森、良き  
洋館が富沢町、はる人形町玄治店、三  
光新道少し裏、有名無名新旧の飲み  
屋料理屋商店が、締めく今も繁華街、  
戦前建築点々と、元霞原の総領守、未  
廣神社の玉垣や、隙間隙間の細き路  
地、愛して進めば勘殿町、水天宮を右  
手に感じ、店も途絶えてヒルの裏、勿  
論大門口無けれど、深呼吸して目を  
瞑りや、きつと見える大門口。

粋な名に似合う姿を求めんと 梅里

下町のいかす景色はガラス越し 変わりゆく街に毅然と立つ歲月



文京区弥生町の旅

大門口の代わりに潜る赤鳥居



大切な話はしづらい応接間

北口番外編

東京大塚カウンター異聞  
K'sバーの人々

駅前の大塚ビルは跡形も無くなり、既に次なるビルの基礎工事が始まった。あそこが無くなるらしい、ここがビルになるらしい、大塚がそんな噂が飛び交う街になるとは、思いもしなかった。

\*\*\*

「大塚北口診療所の一階が綺麗になりましたね」。朝八時に仕事場に来て、掃除その日の仕事の支度が終わる九時頃、パークでコーヒーを飲むのが、いつの間にか習慣になった僕がいる。「正月返上の突貫工事でしたよ」と笑顔でお代わりを注ぐ鐘ヶ淵さん。「突然の全面ガラス張りカウンターですもね」。

最初は雑居ビルだったのに、気が付いたらクリニクになり、どんどん陣地を各階に広げ、今じゃ診療所ビルと言っても過言ではない。だって

「僕が若い頃は、パチンコ屋でしたから……？ 喫茶店が先だったかなあ」、「どっちが先だったか、アタシの記憶も曖昧ですよ。ただ店名はどっちもロビーでね」、「そうそう、ロビー！ テーブルがTVゲームで、トランクリザーって

いう猛獣ゲームが流行ってる頃です。よく行ったんだ」、「アハハハ、ゲーム嫌いなペンギンさんでも、はまったものがあつたんですね」。

「同じ名前の喫茶店が、都電の向原電停の近くにあつたんです」。春日通りと空母橋に向かう道の角にある交番、そのちよつと手前のビルの一階にあつたんだ。看板の作りも書体も同じだったから、きつと一緒だろう。「何となく見た記憶がありますねえ。ロビーがやめた後、スーパールになったような気がします」、確かにそうだったかもね。「向原って言つと、やはり図

書館を思い出しますね」と、思い出を手繰る鐘ヶ淵さん。「豊島中央図書館！ 二人同時に言ってしまった。」「都電の

線路のすぐ近く、春日通り沿い、茶色いタイル張りの三階建てで、妙に広い前庭から階段で登るんです、「よく落語のCDを借りにいったなあ」。

「さして広くなかつたけど、妙に落ち着く雰囲気を漂わせていた。」「どっかモダンな建物で、よく雑誌を読みに行きましたよ」、「三階が閲覧室で、食堂もありましたよね」、「お昼時になると、学食みたいな匂いが漂ってくるんです」。

「そういう、食堂のある図書館も、めつつきり減つてしまつた。」「古くて決して使いやすいつとは言えないけど、あの年季の入つた区役所の庁舎と、似合ひの図書館でした」。

「鐘ヶ淵さんは思い出の誘導尋問スペシャリストだ。カウンターの隅っこにいる七十代くらいのオジサンとは、盛んに上野の話をしてる。西郷さんの銅像の下にあるビルにあった聚楽の、ガラス張りな床の話。かと思えば、僕より

「ちよい年上っぽいロン毛を束ねたお兄さんとは、骨董通りにあつたバイド・パイパー・ハウスのカッターアウト盤のラインナップについて。」「ただいま」と診察を終えた武田のおばあちゃんとは、椅子に座るやいなや「あんな土産物屋ばっかりじゃなかつたわよね」と、地蔵通り商店街の話をしてるんだ、旨いコーヒーを淹れながら。「そうそう、そうだったつけれね」の返事が、店中に広がっている。

「おやペンギンさん、そろそろお店開ける時間じゃないですか？」、「ホントだ、戻らなくちゃ」と僕が店の扉に手を掛けた瞬間、後ろから「そういえば、折戸通りに映画館が出来ましたね」という鐘ヶ淵さんの誘惑の一言……。「そうなんですよ、もつと

存知でしたか？ シネマハウス大塚っていう、五十人くらい入るスペースなんです」。

「ここは奇遇にも、親父の代からのお得意さんの社長が作った箱で、館長始めスタッフさん達も、社長旧知の友人ばかりらしいんだ。」「お、何か詳しい経緯を」存知のようですね、ペンギンさん、「二やりと笑つたりの表情に見えてくる。

「この話をするには、大塚名画座のことから説明しなくちゃならないんです」、「そりゃ大変だ。まあお暇な時でも聞かせて下さいよ」、はいはい分かりました。でもね、今日のところは帰りますんで……。

\*\*\*

大塚名画座は昭和の終わりに消えた。ビルだけ残つてるのが切ないのだが。

編集後記のようなもの

花粉症を含めると三種類のアレルギー系の薬を併用してるので、当然の報いとして猛然と眠いです。そうじゃなくても春晩なのに、この不眠な睡魔には手を焼きますね。花粉症の薬からオサラバするのは五月の連休明け。後の二種類が飲み終えるのは、いつのことやら。★配布協力感謝：千駄木・古書ほうとう、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司が谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路築地・ふげん社、浅草・珈琲アロマ。本駒込・青いカバ。